

令和元年度事業報告

『シームレスで使いやすい和歌山市公共交通体系の実現に向けた研究』
事業報告研究会代表 辻本 勝久
【和歌山大学経済学部教授】

1. 概要

和歌山市には3社7路線31駅の鉄道網と路線バス網、地域バス、907台のタクシー車両、フェリー、レンタサイクル等からなる公共交通体系がある。しかしながら、利用者側から見て、これらが「ひとつの移動サービス」として有機的につながっているとはいえない。

例えば「和歌山市六十谷の自宅から和歌山城へ遊びに行き、ガーデンパークで映画を観て、イオンモールで買い物をして帰りたい」といった場合、公共交通利用なら最寄り駅やバス停の確認、乗り継ぎダイヤの検索、運賃の確認、切符の購入、待合場所の確保など一仕事となる。「わからない」「面倒」「うまく連絡しない」といった理由で、希望通りの外出をあきらめている若者も多いのではないだろうか。

若者など車を運転できない人を含め、すべての人がより自由に、地球と健康に優しい手段で移動できる環境をつくるには、情報検索の煩雑さ、予約や決済の手間、接続の問題、待合環境の問題などをひとつひとつ解決し、シームレス(継ぎ目のない)で使いやすい革新的(イノベティブ)な和歌山市公共交通体系を実現することが必要である。

そこで本研究では、関係行政機関や市内公共交通事業者との連携のもとで、和歌山市の公共交通体系のシームレス化をソフト、ハードの両面から検討する。具体的には、MaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス: マース) や、交通結節点の改良、直通運転化等の先進事例を取り上げ、それらの和歌山市公共交通体系への応用や、和歌山市活性化へのつなげ方等について、若者(学生)などの利用者、経済界、交通事業者、政策担当者、研究者のそれぞれの立場から議論した。

2. 期間

第1回研究会	2019年11月15日
第2回研究会	2019年12月20日
第3回研究会	2020年2月3日
第4回研究会	2020年3月13日

3. 参加者

鉄道3社(JR西日本、南海電鉄、和歌山電鐵)、和歌山バス、和歌山県と和歌山市の関係部署、和歌山市観光協会、和歌山運輸支局など。